

COLUMN 01

老舗企業の強みとは？

右の表は、帝国データバンクが創業百年以上の老舗企業4000社を対象にしたアンケート結果内の項目「老舗企業の強み」の上位ランキング表です。これらに共通するのは、財務諸表に表われる業績や物的資産ではなく、長年かけて企業が育んできた“知的資産”といえるものばかりです。一朝一夕では獲得できないこれらの項目を地道に積み上げていくことが、結局のところ企業の存在意義を高めていくのかもしれない。

※出典「百年続く企業の条件」帝国データバンク／朝日新聞出版

老舗企業の強みとは

1位	信用	(73.8%)
2位	伝統	(52.8%)
3位	知名度	(50.4%)
4位	地域密着	(43.1%)
5位	厚い信頼	(37.5%)
6位	顧客の継承	(33.2%)
7位	技術の継承	(29.5%)

COLUMN 02

社是・社訓の違いをご存知ですか？

左頁コラムと同じアンケートに、77.6%の長寿企業が「自社の社是や社訓を保有している」と回答がありました。では、社是・社訓の違いは何でしょう？これに関しては、「社是=会社が是(正しい)とするもの」「社訓=会社で守るべき教え、教訓」と覚えておくといいでしょう。いずれも会社の必須事項ではありませんが、明文化された方針があると会社の意志が社員に浸透しやすいものです。ちなみに右は社是・社訓を定めるうえでの5つのキーワードです。まだ決めていない、もしくは再考したいとお考えのみなさんは参考にしてください。

社是・社訓の「カキクケコ」

カ=感謝	「売り手よし、買い手よし、世間よし」の三方よしの考え
キ=勤勉	地道な努力で、正直を貫き、まっとうな商売を心がける
ク=工夫	創意工夫で時代に合った商品・サービスを提供
ケ=儉約	「タラリ(ムダ・ムラ・ムリ)」を避け、社業発展に尽くす
コ=貢献	使命感をもって社会・地域貢献に尽くす

SINCE1789
寛政元年創業
久保酒蔵株式会社
代表取締役 久保 雅彦氏

住所 宇佐市大字長洲3581-1
TEL.0978-38-0109
https://kubosyuzou.jp
【宇佐中央支部会員企業】



昭和30年代頃と思われる写真。人気銘柄「静風」と描かれたトラックの前で撮影

コロナ禍で挑む新たなブランドづくり

大分県下で最大の穀倉地帯といわれる宇佐平野は、豊かな大地と清らかな水に恵まれ、古くから酒づくりに適した地として知られてきました。なかでも漁師町として知ら



製麹前に手作業で放冷している様子

れる長洲地区は酒を豪快に楽しむ土地柄もあって、美味しい酒づくりに切琢磨しながら専念する酒蔵が点在しています。

寛政元年創業の久保酒蔵株式会社も、そのひとつ。貴船神社の境内にあり、その由緒ある地で汲みあげた硬水を仕込み水に使い、こだわりの原料による酒づくりを続けています。

もともと日本酒蔵としてその名を馳せていた久保酒蔵ですが、昭和50年代から休眠状態でした。実は当酒蔵に限らず、酒類製造免許増数は全国的に減少傾向にあり、ピーク時の1975年と比較すると半数以下になっています。しかし、「長く続いてきた歴史を終わらせてはならない」と、家電メーカーの営業マンから心機一転、8代目に就任した久保雅彦代表取締役が事業を再開。平成19年には経営革新を取得し、熟練の杜氏と力をあわせながら、本格麦焼酎「久保」の製造を開始しました。「麦本来の香ばしさを醸し出すためハダカムギを原料に使い、手作業にこだわった丁寧な麹づくり、



久保 雅彦 代表取締役

旨味を楽しめる常圧蒸留を施し、飲み応えのある麦焼酎に仕上げました。おかげさまで、いろいろな料理に合う焼酎との評価をいただいています」

県外にも多くのファンを持つまでになった久保酒蔵ですが、ここに来て想定外の試練に見舞われています。コロナ禍による飲食店の営業自粛や、観光客の激減による土産品店の売上不振が、深刻な影響を及ぼしているのです。

そこで同社では、麦麹を使った芋焼酎の醸造に取り組んでいます。芋焼酎は通常、米麹を使用するのですが、同社では県産大麦「トヨノホシ」を使った麦麹を使用。材料となる芋は豊後大野市産の紅はるか、酵母はカボス由来の「大分酵母」と、徹底的に大分にこだわり、2021年3月より販売を開始しました。「ある意味、コロナ禍だったからこそ挑戦できた新製品。最初は少量生産ですが、その反響を見て新たなブランドにしていきたい」と久保代表は意気込みます。

商品名に冠したのは、かつて同社の日本酒銘柄だった「静風」。原点に立ち返り、新たな“風”を吹き込みます。



酒蔵に設けられた直販コーナーでは試飲も楽しめる



新商品の芋焼酎「静風」

SINCE1922
大正11年創業
ひょうたん温泉
(株式会社ユーネット)
代表取締役社長 田中 仁 氏

住所 別府市鉄輪159-2
TEL.0977-66-0527
営業 9:00~25:00 / 年中無休
https://www.hyotan-onsen.com/
【鉄輪支部会員企業】



ランドマークのようにそびえる巨大なひょうたん。当時は旅館も営んでいたそうです

100年の誇りを次代へ繋いでいく



田中 仁 代表取締役社長

誰もが驚く右上の写真は、昭和初期の鉄輪・ひょうたん温泉。残念ながら戦時中に取り壊されてしまったのですが、温泉そのものはミシュラン観光ブックの三つ星に選定され、広く愛される存在になっています。5代目となる田中仁代表取締役社長に、ひょうたん温泉にまつわるエピソードを話してもらいました。

「創業者の河野順作は、大阪で日本初の国産スクリーの製造を成功させた鑄造メーカーの経営者だったのですが、リウマチを患っていた妻の湯治で別府へ通ううちに50代半ばで移住し、温泉を掘りあてました。その際、大好きな豊臣秀吉の旗印だった、ひょうたん型の岩風呂を造ったのですが、昭和2年には本人の還暦記念で高さ18m・7階に展望台をつけた“ひょうたん閣”を建てたところ、大きな注目を集めたようです」

まるでテーマパークで見かけるような外観ですが、現在のひょうたん温泉も“温泉エンターテインメント施設”といえる充実ぶりです。館内では10種類もの泉質が楽しめ、多彩なスタイルで源泉掛け流しの温泉を楽しめる施設になっています。



ひょうたん温泉の名物でもある瀧湯

「2022年の100周年を前に、リニューアルしたばかり。古いものを残しながら新しい魅力をつくりだせるよう、次代を担う長男も交えて計画を練り上げていきました」



創業時から引き継がれているひょうたん型の湯船

創業者の家系として大阪で生まれた田中社長が、ひょうたん温泉に従事しはじめたのは2010年から。それまでは製薬会社の営業や介護施設等、観光とは縁のない職種に従事していたのですが、勤務するうちに後継者不在で事業譲渡を検討していた当温泉を承継することを決意。先代の河野純一会長に経営者としての才覚を学んだ後、2016年に社長へ就任しました。

「コロナ禍でのリニューアルオープンでしたが、大手リゾートホテル進出が続く別府のポテンシャルは高い。当温泉に加えて竹瓦温泉も“温泉施設”部門でミシュランを獲得しており、日本でも珍しい観光地。別府を代表する施設として誇りをもってサービス向上に努めたい」と田中社長。さらに「百年は先人が積み上げてきた努力の結晶。創業の想いを繋いでいくのが私の役割」と決意を語ります。

次の100年に向けて、ひょうたん温泉は、既に走り始めています。



地元客から観光客まで幅広く愛されています